



FUTURE OF
HUMANITY
RESEARCH CENTER

未来の人類研究センター
東京工業大学 科学技術創成研究院 メタリアループ研究教育院

日本学術会議哲学委員会 (virtual)
「AI時代における哲学・美学・倫理学・宗教学」
2023/11/25 13:30-17:00 (14:00-14:20)

AI時代の 自律と依存

東京工業大学 科学技術創成研究院 未来の人類研究センター

伊藤 亜紗 Asa Ito (美学)

道具としてのAI／他者としてのAI

- 理工系研究者と人文系研究者のギャップ
- **道具**ゆえの自明性
- 人間的なもの＝**他者**ゆえの不気味さ
- 「道具か人間か？」ではなく「道具かつ人間」



AI
時代における
哲美倫宗
学学理教
学学

公開
シンポジウム

11/25 (SAT) 13:30-17:00 ONLINE
オンライン開催

PROGRAM

13:00 開会挨拶
13:00 報告1
13:30 報告2
14:00 報告3
14:00 報告4
15:00 休憩
15:00 オープニング
15:00 閉会挨拶

主催：日本学術会議青年委員会、日本哲学系学会連合会、日本宗教研究学会連合会事務局
協賛：日本学術会議、日本学術会議青年委員会、日本学術会議青年委員会事務局、日本学術会議青年委員会事務局、日本学術会議青年委員会事務局

お問い合わせ：office_jr2023@gmail.com

伝統的な分類

- 道具 = 人間が特定の目的のために制御して用いる対象
- 人間 = 他の存在によって制御されない自律性をもち、
種々の権利が認められ、責任を引き受ける主体
- AIは制御の対象という点において道具であり、
かつ制御を超えている点において人間的（他者的）

※奴隷や軍人などの例外

各時代の典型的な所有の対象

初期近代	家畜や栽培植物などの「生ける人工物」
産業革命以降	死せる、無機的な人工物
情報化以降	物ならぬ知識、情報（知的所有権の時代）
AI時代	生物学的な意味では「生きて」いないが、一定の自律性をもって勝手に動き回り、人間の理解を超えた振る舞いを示すという意味では「生きて」いると言える新たな人工物



AIのアナロジーとしての家畜/栽培植物

- ・ AI=「人工物」でありながら「人間の理解を超えた振る舞い」
- ・ 家畜や栽培植物 = 「人間による餌やりや品種改良といった介入」を受けているが、「地中での菌を媒介とした他個体とのネットワークの構築や病気・死亡のタイミングなど、人間の制御を超えた要素」を内包

▶ AIは「使う」対象でも「社会をつくる」相手でもなく

「飼う」「飼い慣らす」対象

AIを飼う

- **LOVOT** (株式会社GROOVE X)
- 平熱37-39°C、50箇所センサー
- 赤ん坊のような喃語で話す
- 「ペットと同じように人の心を癒すロボット」
- 「人類とAIの新しい世界線」



LOVOTの自律性

- 充電が減ると自ら充電場所へ帰る（飼い主の都合で遊べない）
- 2体セットから発売（社会性の重心）
→ 道具のような利便性がないからこそ飼える
- 「空気を読めない人」「共感しすぎない人」
- cf) 円城塔「AIにしか分からない文学」
- AIの役割はコーチング
「自分の視点」とともにある人間
←→ 「メタ認知」可能なAI



千葉雅也×円城塔×山本貴光「GPTと人間の欲望の形」『文學界』2023年8月号、文藝春秋

林要『温かいテクノロジー AIの見え方が変わる 人類のこれから知れる 22世紀への知的冒険』ライツ社、2023

飼う = 相互依存

- 飼育栽培化は双方向のプロセス
- 「飼う」とき「飼われている」 = 共進化
- 「われわれは、自分が主人で、ほかの種は自発的な僕か奴隷だと当たり前のように考えている。ところが、われわれが動植物と結んだこうした契約関係は、それぞれに異なる複雑なもので、共生や共進化の状態へと徐々に進展した」
- オオカミ → 雑種のイヌ / 人 → イヌを使った狩り
- 人間は地球上でもっとも「飼われやすい」種



自律と依存

- テスラ車死亡事故（2018）運転支援システム使用中に居眠り
- 前方注視義務違反を理由に運転者に有罪判決（2020）
- 一方、機械との協調動作においては、人間の注意力が低下したり、主体性感覚が喪失する実験結果
- 能力は文脈依存
- AIによって飼われる人間
- 悲観や糾弾よりも「よきアナロジー」に学ぶこと